

平成31年度  
弥富市一般会計予算

**問** JR・名鉄弥富駅橋上駅舎化、自由通路整備に関する予算をなぜ削減したのか。

**答** 事業の中止ということとでなく、実施を延期し、財政調整基金を減らさないようにした。

## 弥富市文化広場条例の一部改正について

**問** 市民プールを廃止するとしているが、中学生の授業はどうなるか。

**答** 3校で十四山中学校のプールを使用する。

**問** 十四山中学校のプールが使えなくなったらどうするか。

**答** 長く使用できるように維持管理する。



三宮十五郎議員

反対

## 市財政状況の共通理解を

この度の当初予算は中期財政計画とあまりにも大きな差があり、これは市民が正しく理解できない。

財政力指数も0.98で全国の市町村の中でも50位であり、財政危機とは考えられない。

市民・市・市議会が共通の理解を持つことが大切であり、市民の誤解を招いていることから反対する。

## 安藤市長に対する辞職勧告決議

下記の理由により、安藤市長に対し辞職を勧告する。  
以上、決議する。

## 記

## 理由

弥富市議会は、平成30年12月定例会において安藤市長の所信表明の内容とも一致する、議案第64号「第2次総合計画の基本構想について」を全会一致で可決した。

しかしながら、平成31年3月定例会において安藤市長から提案された議案第1号平成31年度弥富市一般会計予算は、この議決された総合計画から大きくかけ離れ、長年多くの労苦と費用を使い築き上げていた大規模事業を計上しないものであり、その中でも特に、市民の生活支援に絶対必要な扶助費を削るなど大幅で安易な予算削減をされるものであった。

今定例会中において、本来のあるべき姿に大幅な訂正をするに至ったことは、新聞紙上で「前代未聞」などと揶揄され、弥富市に大きな汚名を残すこととなった。

この予算問題の審議において、安藤市長は、それぞれの立場からの意見を持つ市の幹部との情報を共有すべき深い議論をすることを欠き、重要な予算案を決定していったことが、経緯として明らかになっている。

このような決定過程は、解決に導く方策の提案と行動が行われておらず、十分な職責を果たすべきリーダーシップを発揮しているとは言えず、今後の改善策も不透明なままである。

また、議案の訂正を議会に提出する前に、市民に向け、あたかも決まったことのように発信するなど議会を軽視した軽率な言動が目立っている。

安藤市長のこのような独善的な市政運営、言動は、議会と市長という二元代表制の軽視に繋がるものであって、議会制民主主義と健全な市政運営に禍根を残す重大な問題であり、市長の責任は極めて大きい。弥富市議会としてはこれを看過することは到底できるものでない。

よって、弥富市議会は、安藤市長がこのまま具体的な改善策を見出せなければ、今後、市政のさまざまな課題を解決に導くことに大きな不信を覚えることから、その進退を問うものである。

平成31年3月22日

愛知県弥富市議会